

りんごの未来が心配だ

千葉県千葉市立検見川小学校 五年 小林 悠樹

ぼくは、りんごが好きです。一歳十カ月で保育園に行き始めたころ、家に帰りたくて「ママ、パパ、りんご。」と泣いていたそうです。

毎年冬になると、東北に住んでいる祖母が箱いっぱいりんごを送ってくれます。祖母は、手作りのりんごジャムも、大きなビンにたくさん作って送ってくれます。そのジャムは、パンやヨーグルトにかけて食べるととてもおいしいので、毎年楽しみにしていました。ところが、今年はいつもの半分の大きさの箱で、ジャムも一個しか入っていませんでした。祖母の話によると、いつもりんごを送ってもらっている農家さんのりんごが夏の暑さのために不作だということです。味も、いつもはシャキシャキしているのに、今回は少しモサモサしているのもありました。それも暑さのせいだと聞きました。

ぼくは、今年の夏の暑さがりんごにも影響していることに、とてもおどろきました。副読本を読むと、りんごの主な産地は、青森県や長野県で、涼しくて、雨が少ない地域が暑くなると、涼しい気候で育っていたりんごがおいしく育たなくなることが分かりました。気象庁のデータによると、青森県の一九七三年の年間平均気温は九度、二〇二三年は十二・六度で、五十年で三・六度も上がっています。このまま地球温暖化が進むと、青森県ではりんごが作れなくなってしまうのではないかと心配になりました。もし、青森県でりんごが作れなくなったら、りんご農家も、仕事がなくなってしまうと思います。この問題は、りんごだけではなく、他の果物にも当てはまるのではないかと思います。

ぼくは、地球温暖化を防ぐためにゴミを減らし、資源を大切に使う努力を続けて、おいしい果物を守っていききたいです。